

2024年度  
(臨時) マンツーマンディレクター会議

2024/6/28

マンツーマン推進プロジェクト

**1. 会議の目的（5）**

- ① 対応策の考え方
- ② 課題と要望の共有
- ③ 役割確認：その他共有と都道府県への展開

**2. 課題と対応策への案（事前アンケートより）（15）**

**3. 事前アンケートより、U12の課題（10）**

**4. 事前アンケートより、U15の課題（10）**

**5. 事前アンケートより、要望（10）**

**6. 依頼事項：**

- ① 都道府県内での情報展開（U12/U15 MC/指導者）
- ② 都道府県内でのU12/U15 マンツーマン対応の連携について

**7. 終了後、全中ブロック大会 担当者のみMTG**

## ①-1 課題から対応の考え方

### <課題への対応策案>

①長身者が制限区域内にとどまり続ける事象

②オフェンスリバウンドの後のマッチアップがない

③マッチアップが不明確な状態から、トラップに行くケースがある

④トラップ専門とされている選手がいる

→ マッチアップさせないといけないのでマッチアップを促す。改善なければ旗の対応あり。  
U15でも同様の課題。(2-2-2、7-2-1)

→ 5-2-7でトラップを行わない=努力目標としての提示。(判定基準V-①)

→ 最初だけマッチアップして、その後マッチアップしないのは違反(5-3-1)

⑤完全にビジョンをなくす選手がいる

→ 技術不足の場合はやむなし(初心者が多い場合など)(3-3-6)

→ しかし上位に繋がるトーナメントでは相手が不利益を生じるので、促し及び旗の対応で改善を図る。

→ 都道府県上位、ブロック、全国では基本的に技術不足は考慮しにくい。

⑥フルコートでのスローイン時にスローインするプレイヤーへのマッチアップについて

→ スローインするプレイヤーにマッチアップできる場合、原則として適切なマッチアップを行うこと。  
(7-1-2)

→ 意図的に異なるポジションを取っており、かつトラップやインターセプトを計画しているとみなされる場合は旗の対応を行う。

→ マッチアップしていることがMCにわかるようにすること。(1-2-1)

⑦アイソレーションオフェンスの際のディフェンスの捉え方

→ オフェンスが動かないのでディフェンスも動かず、ゾーンに見えるがマッチアップをしている状態

→ オフェンス側が引き起こしている事象であると考え。(判定基準Ⅶ)

### <課題への対応策案>

#### ⑧スクリーン時のスクリナーディフェンスの捉え方

- スクリーン後のマッチアップ状況を見る必要がある (1-3-3)
- 長身者が制限区域内にとどまり続けるような事象であれば改善を促す。

#### ⑨オフェンスからディフェンスの切り替わりにおけるマッチアップ

#### ⑩本来マッチアップすべきものが違う (ガードはガード、ビッグはビッグというマッチアップ)

- 攻防の切り替わり時は必ずしもマッチアップすべき対象になるとは限らない (ガードはガード、ビッグはビッグ、というマッチアップ)、チームが決める自由度を与えるべき (MCは管理できない)
- ビッグマンを外に出したいからオフェンスのマークマン (シュート力がないものを意図的にマッチアップする) がアウトサイドへ出るがついていけないのはどうなのか、についてはMCとしてコントロールするものではない。
- マッチアップが異なるだろう、ということはMCがコントロールできない/ゾーンであるとは見做さないで、異なるマッチアップになっても旗の対象ではない。
- ディフェンスのスタートが1-2-1-1のような位置どり (エリア) からスタートすることはゾーンプレスとみなす。(まえがき)

#### ⑪ディフェンスヘルプローテーションの捉え方

- ヘルプが起こっている際は、ボールマンに二人集まることが起こる。これをゾーンとは見なさない。
- その後にエリアを守り続けようとするのか、マッチアップに戻ろうとするかで判断する。  
(第4条ヘルプディフェンス)

### <課題への対応策案>

#### ⑫フルコートでの最も遠いプレイヤーのマッチアップ位置

- かなり裏パスを狙う位置に来ており、トラップから出てくるパスを狙うインターセプターになる
- 本来オフボールオフenseプレイヤーへのマッチアップとは  
**「ボールマンになった時に戻ることができる、得点を防ぐことができる位置どりをすること」**  
(2線のポジショニングでの説明、基準規則では定義はされていない)
  - U12の場合「投げられない=ボールが行かない」ので「マークマンをマッチアップしているふりをして」「トラップや裏パスを狙う」プレーを指示する指導者がいる
  - 距離を規定することは、常に変化する以上、数値を示すことは妥当ではないので行っていなかった。2線がどこまでヘルプに寄って良いのか、と同じ議論と考える。
  - オフェンスが空いているノーマークを攻めることで解決するべきであるが、それができないレベルの攻防において指導者がそのプレーを狙わせることに問題がある。(3-3-6、まえがき、5-2-7)
  - 「ボールマンになった時に戻ることができる、得点を防ぐことができる位置どりをすること」に違反している、という判断

トラップを仕掛け続けることが U12 攻防であるべき姿かどうかは、指導者の考え方に関わる。指導者が倫理観を持ってコーチングすることが大切で、あまりにコントロールするルール作りで縛ることはマンツーマン推進の方向性に逆行する。

「子どもたちがバスケットボールを楽しめる環境作り」を再考し、  
「バスケットボール本来の在り方に近づけること」を目指したい

## 対応案⑫について

1) ⑫の対応がかなり多く見られるが、旗があがらない場合がある。ボールから一番遠いオフェンスに対するディフェンスがかなり離している場合は旗を上げ注意や警告すべきか？

→ ボールマンになっても戻ることができない位置にいる時はあるべき姿に改善を促すようにしてほしい。

2) 「（自分のマークマンが）ボールマンになった時に戻ることができる、得点を防ぐことができる位置どりをすること」に違反している、という判断。ここについて「違反」とする基準規則上の根拠が明確ではないように思いますが、結局はどう対応していくのかについて対応案⑫でのJBAとしての考えを私が汲み取りきれませんでした。

A：こちらの文言を今後基準規則へ追加していくのか

B：基準規則には追加せず、倫理的な話として指導者へ伝達していく形なのか

C：その他 についてをお伺いできればと考えます。

→ Bの基準規則には追加せずに指導者に改善を求めたい、というのが現状です。

基準規則に記載するには難しくケースによるからです。

原因はボールを投げられないことにありますが、U12世代で技術的にパスの距離を伸ばす、ということが求められます。

## 対応策案①②③④について

1) 長身者がペイントエリアにとどまり続けること、マッチアップが不明確な状態からトラップに行き、スクランブルな状態のディフェンスが続くことは、意図的・組織的なゾーンディフェンスでないとしても相手のオフェンスにとっては不利益を被りやすいことだと思っていたので、課題として取り上げてもらえてよかったのではないかと思います。

「マッチアップが不明確で、ゾーンに見えますよ。（MCはそう判断しました）」という意味合いで積極的な黄色旗、コーチへの説明はあってもよいのかと思います。

→ 指導者には理解を深めてもらいたく、MCとしても説明の文言として使っていたきたいです。

## 対応策案⑥について「フルコートでのスローイン時にスローインするプレイヤーへのマッチアップ」

- 1) スローインするプレイヤーへマッチアップを行っていたが、パスを受ける選手が近くにきたのでダブルチームのようになってしまう。また、スローインするプレイヤーの目線やボールの動きによって、ポジショニングを変えたらダブルチームのようになってしまう。ということについてどのように捉えればよいでしょうか、スローイン時のマッチアップの距離が少し遠いときに起こりがちなシチュエーションです。
- 2) ⑥について原則マッチアップは分かるが、カウント後のスローインで間に合えばスローアークに入るが、遅れた場合にトラップ目的ではなくヘルプ目的くらいの感じでフリースローラインくらいまでしか出ない、何もなければゲームへの影響はないがヘルプの観点から見るとスペースを守ってしまっている。しかし、バスケット的に考えると明らかに間に合わないケースで必死にボールマンに行くことの意味はあるか？という疑問もある。
  - 意図的、組織的であると判断すれば警告を与えます。マッチアップを促すようにしますが、1.5m以内に必ず行ける場合ばかりではないので、裏パスを狙うなどの意図がなければそのままプレーさせます。

## その他

- 1) これとは違う話題ですが、トラップディフェンスの定義「ボールをスティールできる距離」について話題にあがったことがあります。どのように解釈すればよろしいでしょうか。
  - 人により手の長さが異なるので、距離は数値化することが難しいです。トラップとダブルチームを以前は分けていました。トラップの三要件に必要だったためです。しかし現在はこの要件を外していますので、ここを細かく見る必要はありません。
- 2) 資料にある「指導者が倫理観を持ってコーチングすること」をもっと多くの指導者が理解し、実践してほしいと思います。
  - 仰る通りですので、指導者養成、U12/U15部会へも協力を依頼します。

- 1) ①ビックマンの制限区域でのステイが気になる、⑫フルコートでの最も遠いプレイヤーのマッチアップ位置が離れすぎの場合の旗上げが不足が気になる
- 2) 旗の対象となるプレーが減少しておりますが、マンツーマン推進が行き届いていない地区もありますので講習会や各大会等で情報発信していきたいと考えてます。
- 3) どうしてもボールのみを視野に入れてしまっている。オフェンスも動きがないし、エースが基本的に攻めることが多いので、DFというよりOFの問題が大きいように思います。
- 4) 支部によっては、全チームに共通理解がまだまだ図れずに、勝利至上主義で子供たちに指導していたり、マンツーマンコミッショナーに対して、横柄な態度を取る指導者がいたりする。ベテラン指導者が特にその傾向にあるので、何とかその部分を統一できるように講習会を各支部で必ずやらせてもらえるようにしている。
- 5) トラップを推奨しないにも関わらず、散見される状況（特に低学年などが入る前半）の解消（例：後半だけに制限する）、また引いたマンツーマンディフェンスが増加傾向のため、スリーポイントシュートを導入してほしい。
- 6) フルコートディフェンスでトラップを仕掛け続けるチームが増えています。マンツーマンからは少しかけ離れているような気がします。うまく注意を促していけたらいいとは思いますが。
- 7) コミッショナーが配置されない試合で「もっとマークマンから離れて守れ」などの指示があった。
- 8) トラップありきの指導、ゲームが多く見受けられる現状があるようである。
- 9) チーム帯同のため判定に差がある。認識が違う。徹底していない。
- 10) 自県では、あきらかにトラップが増えたようなこともなく、あまり神経質に旗が上がるわけではないが、常時起こらない現象に対して、どこまで旗を使用すべきかの判断に悩む。



- 11) ①2023.4基準規則改定以後、「完全にゾーン」なものに旗を上げ、それ以外はその時の瞬間だけで判断しない、となっています。実際に1年半ほどの運用を行い、現場的には赤旗まで行くことが少なくなったように感じますが、判定面での変化 + マンツーマンが浸透してきた の両面かと思えます。ただ、まだ以前の感覚で瞬間的に「あれはゾーンだ」「なんで上げないのか」などの反応も残っているのが現状と感じています。まして判定する私たちMCサイドにも「さっきの試合はさすがに上げないといけなかったのでは」など、判定を浅くしていく方向性の中で時に悩み、間違うことがまだまだあるところです。現行の基準規則が現場運用レベルに下りてきての着地点として、県内全ての人理解・納得できる運用をMCとしてできているか、は課題と感じています。他県ではどのように現場レベルで運用されているかは気になるところです。
- ②U12でもトラップにおける3要件の撤廃が成されましたが、あれ以降どうしてもボール中心でなし崩し的に数的優位で守る戦術は増えたと感じています。「育成年代では推奨されない」との基準規則文言がありますが、努力義務としてですのでMCサイドとしては試合の成り行きを見守るだけです。
- 12) 去年の改定以降トラップを多用するチームが増えたと感じる。その流れの中での旗の対象となる事象が見受けられる。

### まとめ

- ① トラップの多用
- ② 制限区域のステイ、フルコートでの離しすぎ = マッチアップをしない
- ③ 3ポイント導入

- 1) マンツーマンコミッショナーに対する暴言(特に理解が乏しい方の)
- 2) ⑫のフルコートの最も遠いプレイヤーのマッチアップ位置が遠い。トラップにいかない場合はゾーンになると考える。
- 3) 上位回戦ではコミッショナーもつきマンツーマンの意識があるが、1、2回戦では意識が低く、ゾーンの的に守ることで勝敗が変わってしまうことがある。子供は意図的にゾーンでボールを取ろうとしているわけではなく、指導者側が伝えられていないように感じる。
- 4) 学校部活動としてのチームの方が、マンツーマンの推進について意識が高い。  
クラブには「マンツーマンの推進より勝利至上主義」に走る指導者がまだいて、クラブだけの大会等で困っているという声を聞く。
- 5) マンツーマン推進の講習会を積極的に実施できておらず、広く指導者にマンツーマンの推進を図れているかといわれると怪しいところである。
- 6) 実力不足、体力不足によるビジョンをなくす選手やペイントエリア内に留まり続ける選手がいる場合、ベンチの指示で改善できるようにコーチ間での共通理解を促したい。
- 7) 人材育成
- 8) 人手不足
- 9) オールコートからトラップを行うチームが増えてきたことから、マッチアップしているかどうかMCによって判断がまちまちになっている。

- 10) コミッショナーの人員確保が難しい。
- 11) 連続トラップやスローインプレーヤーのDFなどで意図的にゾーンポジションやゾーンの守り方を  
するチームがある。(中学)  
意図的なゾーンDFによって勝敗に影響のあった試合があったらしい(実際に見ておらず、MCも置か  
れていない試合でした)が、その勝敗を不服として上位大会への出場を推薦しないように働きかける、  
大会出場制限をかけるような制裁措置を取ろうとするなど、試合後にトラブルが起きた。(クラブ)
- 12) コミッショナーの育成が進んでいないため、マンツーマン推進が浸透しない。
- 13) U15の指導者のマンツーマン推進に差がある。認識が違う。徹底していない。
- 14) 組織の継続性

### まとめ

- ① クラブ指導者のマンツーマン理解
- ② 意図的なゾーンプレス
- ③ 組織の継続性 (都道府県内組織含む)

- 1) 現状、マンツーマンコミッショナーだけがマンツーマンのことに詳しくなる状況のため、どうしたら県全域に正しい知識が広まるのか検討していただけるとありがたいです。(U15)
- 2) マンツーマンディフェンス推進についてはコミッショナーへの指導は進んで来ているが、DC関連から各指導者への普及をもう少しやって欲しい。(U12)
- 3) 後半になるにつれてだんだん小さく守り出すチームが出てくるので3Pの導入を(U12)
- 4) 判定の基準が違うので、U12とU15と一緒に会議をやると、それぞれのカテゴリーで欲している回答を得ることができているのか、疑問があります。別にできた方が話し合いの目的が絞れ、より効果的かと思います。(U15) → **基準規則は同じですが、レベルが異なるので運用が異なる、の意味でしょう**
- 5) ブロック、全国などで実際に起こった赤旗黄旗の事象を取り上げて紹介（MCがどのような判定をしたのかやJBAの見解）してもらうことはできませんか。そのような取り組みがあればMCの判定の参考にもなり、指導者にとってもこのようなディフェンスはさせてはいけないという指標になるのではないかと思います。(U15)
- 6) 簡略化 (U15)
- 7) ゾーンディフェンスになる各種ケーススタディ（MCが旗を上げている状況）を盛り込んだ動画を配信してほしい。（映像の方が状況を理解しやすいため）(U12)
- 8) ビッグマンの1on1のディフェンス能力を上げる施策を行ってほしい。(U12)
- 9) オンラインの良さもわかりますが、ディレクター会議をオンラインではなく以前のように集合して話し合う機会もあっていいのではないかと思います。(U15)
- 10) MCの県協会での位置付けを明確に示す。MCができる人材を増やす。(形だけMCとして立っているが、実際に旗を上げる判断ができない方が多い) (U15)

- 11) 上位大会（全中、ジュニアウインターカップ）のマンツーマンコミッショナーの実力に差がある。上位大会は全国のMCから選抜していくほうがよい。今は来年度全中のMCを中心にしている。そのためにも全国のMCの実力を把握することが必要です。
- 12) マンツーマン推進のこの先の展望をどのように考えているのか？マンツーマンコミッショナーの配置はずっと続けていくのか？ → MCなくともマンツーマンが実施される環境を目指しています
- 13) ① 県U12において、赤旗が上がった時の状況別の処置の仕方について講習会を行いました。（基準規則P17、「赤旗が上がった時の対応」表）しかし、私の力不足もあり、なかなか実際の対応についてを周知できたか難しかったです。判定についても映像教材がほしいですが、「赤旗が上がった時の処置の流れ」について、映像化して教材を作っていただけると助かります。  
② 基準規則P19 【ケース12】スローインの際に、コート内へ投げ入れる前に赤旗で止めた場合についてですが、ショットクロックについては継続でよいのでしょうか。P17の対応表でどこに該当するか、強いて言えばアウトオブバウンズかと思いますが、明確に基準規則内に根拠を見つけきれません。ご教示下さい。(U12) → 挟み込みとしての処置として考えるので、ショットクロック継続。
- 14) 引き気味のチームへの対応として、3ポイントの導入を早期に実施すべき。導入により、現状に納得できるチームが増えると考えます。

### まとめ

- ① マンツーマン意識を指導者が持つ
- ② 3ポイント導入
- ③ 会議のリアル実施
- ④ 判定の映像教材